

文化部活動の効率的・効果的な指導についての手引
(文化部活動のQ & A)

埼玉県教育委員会

令和3年3月

目次

I 文化部活動の意義と位置付け	P. 1
II 文化部活動の適切な運営について	P. 2～P. 11
文化部活動の組織と運営に関するQ & A	
Q 1 文化部活動の運営は、どのようにすべきですか。	
Q 2 文化部の部活動指導員はどのような活用方法があるのですか。	
Q 3 文化部活動インターンシップはどのようなことを頼めるのですか。	
Q 4 高校の文化部活動はどのような運営をしているのですか。	
Q 5 感染症対策はどのようにしたらよいですか。	
III 部活動指導の工夫・改善について	P. 12～P. 17
練習計画や指導についてのQ & A	
1 練習計画の作成	
Q 6 年間練習計画の作成は、どのようにしたらよいですか。	
Q 7 大会（コンクール）期の練習は、どのようにしたらよいですか。	
Q 8 長期休業中（夏季・冬季・学年末・春季）の練習は、どのようにしたらよいですか。	
Q 9 専門的な知識や技能がない場合の指導は、どのようにしたらよいですか。	
Q 10 外部指導者を依頼するには、どのようなことに注意する必要がありますか。	
2 生徒との信頼関係を育てる顧問の心構え	
Q 11 部内の望ましい人間関係を確立していくためには、どのようなことに配慮したらよいですか。	
Q 12 生徒会活動や学級活動等との調和を図るためには、どのような工夫・配慮が必要ですか。	
Q 13 部員の気持ちを把握し、活動意欲を高める指導は、どのようにしたらよいですか。	
IV 部活動における事故防止	P. 17～P. 21
事故防止に関するQ & A	
Q 14 万が一、事故が発生した場合は、どのような対応が必要ですか。	
Q 15 部活動中の事故は、顧問に責任があるのですか。	
Q 16 熱中症の予防と応急処置について教えてください。	
Q 17 怪我をした時の応急手当について教えてください。	
V 部活動における体罰等の防止	P. 21

I 文化部活動の意義と位置付け

1 文化部活動の意義

文化部活動は、生徒が文化及び科学等に親しみ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等を育む自主的・自発的活動です。学校教育の一環として教育課程との関連が図られるよう留意することが求められています。

文化部活動の意義としては、次のことが考えられます。

- (1) 仲間とともに自主的・自発的に行う活動が多く、生徒に喜びと生きがいをもたらす、学校生活や将来の人生を豊かで充実したものにする。
- (2) 学級や学年を離れた集団の中で、互いに認め合い、励まし合い、高め合いながら自己の存在や責任を見つめ、豊かな人間性や社会性を育成する。
- (3) 共通の目標に向かって努力する過程を通して、顧問と生徒、生徒同士の信頼関係が深まり、教員にとっても、生徒理解をより深めるための重要な機会である。
- (4) 文化部活動は、生徒が生涯にわたって芸術文化等の活動に親しむ基礎を形成する意義を有する。

2 文化部活動の位置付け

- (1) 中学校と高等学校の学習指導要領における部活動の位置付け

【中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）第 1 章総則第 5 の 1】

【高等学校学習指導要領（平成 30 年 7 月告示）第 1 章総則第 6 款 1】

ウ 教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

このような状況を背景に、学校や地域が、地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関等と連携し、子供たちが身近な地域で多様な文化芸術活動に親しむための持続可能な環境整備を図るため、文化部活動の地域移行を視野に入れることも必要となってきます。

各学校や自治体においては、様々な変化に対応し、地域との連携も視野に入れた適正な文化部活動の位置付けや運営について、工夫と改善を図る必要があります。

Ⅱ 文化部活動の適切な運営について

1 文化部活動の現状

部活動における実施状況調査（令和2年11月）集計結果より

<http://www.pref.saitama.lg.jp/f2211/bukatsudou.html>

		中学校 *1	高等学校 (全日制) *2	高等学校 (定時制通信制) *3
		356校	136校	26校
部活動数	運動部	3,765部	2,044部	145部
	文化部	1,186部	1,865部	100部
活動方針の公表		356校 (100%)	136校 (100%)	24校 *4(100%)
1日当たりの 平均活動時間	平日	57分	1時間45分	1時間05分
	休業日	2時間42分	2時間29分	2時間10分
平日の平均活動時間 3時間以上の部活動	運動部	1部 (0.0%)	79部 (3.9%)	0部 (0.0%)
	文化部	0部 (0.0%)	30部 (1.6%)	0部 (0.0%)
休業日の平均活動時間 4時間以上の部活動	運動部	134部 (3.6%)	367部 (18.0%)	4部 (2.8%)
	文化部	20部 (1.7%)	94部 (5.0%)	0部 (0.0%)
1週間当たりの休業日 1日未満の部活動（平日）	運動部	33部 (0.9%)	305部 (14.9%)	0部 (0.0%)
	文化部	6部 (0.5%)	160部 (8.6%)	0部 (0.0%)
1週間当たりの休業日 1日未満の部活動（休業日）	運動部	120部 (3.2%)	514部 (25.1%)	0部 (0.0%)
	文化部	16部 (1.3%)	40部 (2.1%)	0部 (0.0%)
生徒の多様なニーズに応じた 活動を行うことができる部活 動を設置している学校	運動部	2校	4校	1校
	文化部	27校	4校	1校
	共用	8校	0校	0校

*1 さいたま市を除く市町村立中学校(義務教育学校含む)及び県立伊奈学園中学校

*2 県立高等学校及びさいたま市を除く市立高等学校(川口、川越)

*3 県立大宮中央高等学校は、課程毎に1校とする。

*4 活動方針の公表は、部活動を設置している学校を対象とする。

○ 特別支援学校を除く。

1 文化部活動の活動時間の超過の主な理由

○ 吹奏楽部（コンクールやコンテストに近い、指導者を招聘しての講習会やパート指導、個人やパート練習で時間がかかった等）

2 生徒の多様なニーズに応じた部活動の例

○ 総合文化部、総合芸術部、華道部、茶道部、環境ボランティア部、手芸料理部、生活芸術部、科学園芸部、日本伝統文化部、文芸部等

文化部活動の組織と運営に関するQ & A

Q1 文化部活動の運営は、どのようにすべきですか。

学校教育活動の一環として、関係教科等と関連付ける視点を持つことや、休養日や適切な活動時間の設定などバランスのとれた生活や成長への配慮を行うとともに、各学校の状況に応じた体制を構築することが必要になります。

[顧問の役割]

(1) 生徒に直接かかわること

- | | |
|--------------------------|---------------|
| ・生徒や学校、地域の実態を踏まえた指導方針の作成 | ・部の目標の設定 |
| ・年間・月間活動計画等の作成 | ・部員名簿の作成 |
| ・部員の健康管理、事故防止と安全指導 | ・実技、技術指導 |
| ・部活動ミーティングの開催・運営補助 | ・部活動日誌等の活用と整理 |

(2) 学校内の組織にかかわること

- | | |
|--------------|-------------|
| ・施設・用具の管理と指導 | ・部予算の確保と管理 |
| ・顧問会議への出席 | ・保健室、校医との連携 |
| ・外部指導者との連携 | |

(3) 外部団体等にかかわること

- | | |
|-------------------------|----------------|
| ・大会等（コンクールや発表会）への手続き・引率 | ・広報活動（部活動だより等） |
| ・保護者との連携、調整 | ・地域団体との連携、調整 |
| ・近隣の学校との連携、調整 | |

これらをすべて最初から整え、部活動を指導することはなかなか難しいものです。できることから一つずつ積み重ねていくことが大切です。

[部内組織の例]（音楽系の部活動の場合）

役員の名称	役 割
部長	部全体のまとめ役（リーダー）顧問との連絡調整役
副部長	部長の補佐、練習計画、スケジュール管理（予定表の記入等）
学年責任者	各学年をまとめ、顧問・上級生・下級生との連絡調整役
学生指揮者	基礎合奏などの指揮。演奏面でのアドバイスを行う
コンサートマスター	指揮者の次位にあり、楽団員を代表する
セクションリーダー	木管パート、金管パート、低音パートなどのリーダー セクション練習の時の取りまとめを行う

パートリーダー	それぞれの楽器や声域のリーダー
〇〇実行委員	イベントがある時などに、企画・運営などを行う 例：定期演奏会実行委員、〇〇祭実行委員 等
係長	各係のリーダー（各係の取りまとめ。必要に応じて、運営委員会に出席して各係の進捗状況を伝える。）
その他の係例（それぞれの学校で必要に応じて係を設定する。）	
楽譜係	選曲から楽譜準備、楽譜の管理。指揮者への楽譜提供
キーボード係	練習、合奏、外部での演奏の時などに、必要な場所にキーボードを適宜移動し、設置する。
CD係	練習に必要なCDを管理する。
講師係	外部指導者や来客に対しての接待担当。
演出係	演出全般の企画をしたり、必要な道具を準備したりする。
輸送係	外部へ演奏に出る際に、楽器の持ち物が積荷として不足がないか確認する責任者。
その他、必要な係 例：水筒係	コンクール時、楽器等で手がふさがりため、各自の水筒や荷物の持ち運びがむずかしい。演奏中の荷物の預かりや、全体で飲めるようなペットボトルとコップ等を準備し、必要な時に手渡す等。

各役員がそれぞれの役割を自覚し、積極的に部活動運営にかかわり、毎日の活動が活発に行われるように指導します。

例えば、生徒だけの役員会議（運営委員会）を月に2回等、定期的に関き、2週間の練習計画を立てたり、メニュー表を作って顧問に確認したりします。自分たちで練習メニューを考えることで、今すぐに必要な練習はもちろん、次の演奏機会や発表までの長期的な見通しをもつことができます。この積み重ねは、顧問からの一方的な押し付けではなく、自主的な運営につながり、活動にも張りが出てくるという効果があります。

係の役割においては、複数の学年で一つの係を構成し、仕事についての引継ぎをしっかりと行えるようにすることが大切です。

[保護者との連携]

保護者との連携は部活動運営に重要なポイントです。

部活動の保護者会では、日頃の活動や予算の使い方、練習や合宿等にかかわる費用などを、十分に理解していただくよう心がけましょう。

保護者への連絡については、顧問から（または保護者会代表）から一斉配信できるシステムを用いると、連絡のミスがありません。顧問からの場合は、顧問の連絡先を教えなくても一斉配信できる方法もあるので、活用してみましょう。個人的な連絡先は教える必要はありません。

[外部指導者の活用]

顧問が、専門的な指導力を有しない場合、顧問は大きな不安を感じる場合があります。

このような時、県や市町村の教育委員会で実施している、地域の専門的指導力を有する外部指導者の派遣事業等を活用することも方法の一つです。

外部指導者の活用は、技術指導の充実が図れるだけでなく、生徒への新たな刺激となります。

また、顧問自身の指導力向上の機会ともなります。学校外から指導者を招く場合には、次のことに留意する必要があります。

- 1 管理職の了解を得るとともに、職員や保護者に外部指導者について周知する。
- 2 健康で部活動指導に見識のある指導者を依頼する。
- 3 活動方針や活動計画の作成など、運営全体は顧問が進める。
- 4 外部指導者とは常に情報交換を行い、適切な連携を保つ。
- 5 謝金等の報酬については、関係機関との連携を図るとともに予め外部指導者と確認する。

他にも、大学主催等で、部活動を対象にした指導者や学生のための講習会やクリニックが各種あります。年間計画に入れておき、講習会を利用するのも安価でよい指導を受けられる機会となると思います。

各学校単独ではパート別の人数も集まらない、講師の謝金が払えない等の課題がある場合は、楽器別の講習会を市町村単位（近隣の市町村も交える事例もあり）で行っているところもあります。

各学校の負担（準備や謝金）が軽減されたり、同じ市内で行うメンバーの交流の場になったりと、よい効果が得られるようです。楽器を持つ初期段階で、専門家からの基礎を学べる機会は大切にしたいものです。

同じように、市内の吹奏楽団等から、定期的に指導に来ていただくなどの事例もあります。学校を市内の吹奏楽団の練習場所として提供している場合は、一緒に練習に参加したり、交流をもったりすることで部活動以外にも、もっと練習したいと思う子供への期待に応えられるかもしれません。

埼玉県では、部活動指導員の配置（採用は各自治体）と、大学生の部活動インターンシップの派遣を行っています。

Q2 文化部の部活動指導員はどのような活用方法があるのですか。

外部指導者と部活動指導員の大きな差は、単独での引率を含め、顧問がついていない時でも単独での指導を任せられるという点です。働き方改革の面からも、大きな効果が期待できます。

また、部活動指導員は、2020年4月より会計年度任用職員（地方公務員法第22条の2の規定より）は、各自治体における非常勤職員という身分となり、報酬や期末手当、通勤費等も各自治体の規定により支給されます。

現在は、国が3分の1、県が3分の1、市町村が3分の1ということで、部活動指導員の費用負担を行っています。

① 吹奏楽部での活用例

（令和元年度指導予定回数 平日99回、休日44回）

顧問の先生からのコメント

退職教員の方に指導をお願いしています。平日は基本1日、月曜日が多いです。休日練習のある時には、ほぼ来てくださっています。

月曜日は、研修や職員会議があり、その間は安心してお任せしています。

まだ経験が浅いので、ベテランの方から具体的な練習方法を直接教えていただけるのはありがたいです。指導に必要な本なども貸して下さるなど大変勉強になります。心強い存在です。選曲についてもアドバイスをいただき、一緒に考えてくださいます。



大会引率の時も、ア～ウの3つのパターンに分かれて行動ができるなど大変助かりました。

○アンサンブルコンテストの時の例

- ア 顧問が役員のため先に会場に行く。
- イ 副顧問がコンテストに出場しない生徒を引率する。
- ウ 部活動指導員は、学校で、時間まで練習してから出場メンバーを連れてくる。

また、全体指導もお任せできますし、金管パートの指導をお願いしている時は、顧問が木管パートの指導をするなど、効果的な指導ができ、時間短縮につながります。

② 箏曲部での活用例

(令和元年度指導予定回数 平日81回、休日36回)

顧問の先生からのコメント

昔から箏曲部の指導に来てくださっているお箏の先生です。

この中学校での指導は50年以上ということです。親子代々教えてもらったという生徒もいます。週当たりの来校は、平日は月曜日が多いです。土日はほぼ部活動はありませんが、大会の前には部活動を行い、その時にもお願いしています。

月曜日は職員会議の時は単独でお願いしていますが、部活動指導員が来校している時には、顧問も箏には詳しくないので、部活動指導員の方の指導を見て勉強しています。しかし、本当に手が離せない仕事がある時は、お願いできるという安心感があります。

指導面の成果としては、基礎的な指導からすべて丁寧に行っていただいています。この道のプロなので本当にお任せしている部分が多いです。合奏中の指導も、自分の気が付かないところも指導して下さり、勉強になります。曲選びからアドバイスをさせていただきます。

御高齢のため、「部活動指導員係」の生徒が、荷物を持ったり、接待をしたりしています。生徒も部活動指導員の方を信頼していて、よい関係が作れていると思います。



部活動指導員の導入をしている学校からの配置の効果のまとめ

(効果)

- ・時間的な余裕が顧問にない時も安心して指導を任せられるので大変助かる。
- ・若手教員には、専門的な指導の方法を教えてくださいと部活動指導員の方は心強い存在である。
- ・引率を頼めるのは、大会時には大変助かる。
- ・コンクールの指揮をお願いすることもできる。
- ・顧問・副顧問で、お互いに休みがとりやすくなった。音楽的な指導ができない副顧問でも、部活動指導員がいれば音楽的な指導ができ、効果的な活動ができる。
- ・平日の時間に余裕ができた。土日練習の場合は、鍵開けには来なくてはならない時もあるが、他部活動の顧問と調整しながら、鍵開けを頼めることもある。
- ・元教員の方の場合、生徒への接し方に安心感があり、生徒や保護者からの信頼が厚い。
- ・2人(顧問と部活動指導員)で指導できるのは時間が短くても効率的な練習ができる。

- ・今までも学校に来ていただいた方を、本年度も部活動指導員としてお願いした。生徒も部活動指導員に慣れているので、安心して任せられる。
- ・楽器の専門家なので、顧問も勉強になるし、客観的な指導ができるのがよい。

(課題)

- ・特に感じたことはない。
- ・音楽指導の相違がある場合は、よく話し合うことが大切である。
- ・生徒指導面で心配な部分までは任せられない（顧問が対応すべき事案。）
- ・忙しい部活動指導員の方なので、日程調整が難しい。

Q 3 文化活動インターンシップはどのようなことを頼めるのですか。

部活動インターンシップについては、応募したい大学生と、依頼したい中学校、高等学校のマッチングを県教育委員会が行っています。依頼したい学校が少ないと、大学生の派遣先が居住地から遠くになってしまったり、大学生の特技を生かせる部活動がなかったりします。多くの学校からの依頼があることにより、マッチングもスムーズに行うことができます。是非、多くの学校に依頼をしていただければと思います。

また、大学生には交通費や指導料が発生しませんので、県としても、できる限り居住地から近い学校を紹介したいと考えています。令和2年度からは、年間で10回指導を行うと、大学生にはインターンシップの修了証が発行されます。

大学生は、各自の特技や経験を生かせる部活動に応募しています。多くは、教員志望の大学生です。

写真は、金管パートのレッスンをしているところです。このインターンの方々は、ホルンや打楽器を小学生から経験している理系の大学生です。顧問の先生との相談の上、この日は新曲の譜読みの手伝いとパートレッスンを行っていました。

学校側も、「顧問が金管楽器はできるので、打楽器経験者をお願いしたい」などと具体的に要望を書くことができます。

是非、双方にメリットのあるこの事業を御活用ください。



Q 4 高校の文化活動はどのような運営をしているのですか。

2つの学校の顧問教諭にインタビュー形式で回答していただいたものを掲載しました。高等学校においても中学校と同様に、県のガイドラインに準じた活動を行っております。

1 県立大宮高等学校 吹奏楽部の場合

(1) 部活動の回数等についてはどれくらいですか。

令和元年度 指導実施回数 平日155回 休日54回（原則、平日1日、土日のどちらかは休養日）

(2) 練習計画の作成はどのように行っているのですか。

新体制が発足した時に、これから1年で達成したいことと現状の自分たちの立ち位置を全員参加のミーティングで話し合わせ、それをもとに1年を3か月ごとの4期に分け、各期の到達目標と実現するための練習計画を考えさせています。

必ずその議論の場で意見を出すこととし、対立する意見が出た場合も部員の中で話し合い、全員が納得する目標・練習計画となるようにしています。翌4月に新入生が入部する際には、この目標や練習計画について事前に説明し、理解した上で入部するようにさせています。その後5月に保護者会を開催し、1年間の流れや練習計画について部長と顧問から説明し、理解していただくようお願いしています。また各期の終わりに振り返りを行い、必要があれば練習計画を修正しています。

詳細の練習日程については、今月と来月の2ヶ月分を事前に配布し、時間配分や具体的な練習内容については1週間ごとに追加で配布し、部員が計画的に活動できるようにしています。

(3) コンクール期の練習は、どのようにしていますか。

コンクールや発表会当日により演奏ができるよう、直前の2週間ほどは休養日のタイミングをよく考えるようにしています。演奏だけでなく自分の調子や体調をコントロールすることも演奏者の大切なスキルであると指導しています。本番直前の休養日前には、このことを特に強調して伝え、きちんと休むよう促しています。

また、配布している予定表により、本番があることやその直前で忙しくなることは、2か月前には分かっているわけですから、勉強やプライベートのことについても事前に計画的に進めてバランスをとるよう指導しています。

(4) 長期休業中（夏季・冬季・学年末・春季）の練習は、どのようにしていますか。

夏季休業中には1年の中でメインイベントとしている吹奏楽コンクールがあります。それに向けて校外合宿やホールでの練習を取り入れています。吹奏楽の性質上、どんなに効率的に練習しても、個人練習、パート練習、全員での合奏の時間がそれぞれ一定時間必要です。繁忙期は集中的に練習計画を立てますが、自主練習の時間や休養日を設けて、部員が自分の状況に合わせて調整できるようにしています。コンクールが一区切りついた後には、それまで忙しかった分、まとめて休養日を設けるようにしています。

冬季休業中には、自分たちの練習に加え、中学1・2年生を募って技術講習会を開いています。人に教えることで、自分の奏法やコツを言語化したり、練習の流れを組み立てたりでき、より一層自分たちの練習の質が向上します。

春季休業中には、次年度のコンクールに向けてホールで練習をしたり、4月の新入生勧誘の準備をしたりしています。

(5) 専門的な知識や技能がない場合の指導は、どのようにしたらよいですか。

各楽器の指導については、楽器ごとの外部講師に、それぞれ2か月に1回程度指導に来ていただいています。顧問はレッスンを見学することで、演奏にあたって注意することや、それぞれの部員の癖等を把握しています。部員には、レッスンで指導されたことを記録させ、定期的に見返したり互いにチェックをさせたりしています。専門家に教わり、正しい奏法で練習することにより、短時間で上達できます。

また、自分自身の音楽の専門知識や指揮法については、書籍や吹奏楽連盟もしくは外部の講習会をとおして勉強しています。時間をかけて蓄積していくしかないと思っています。

(6) 部員の気持ちを把握し、活動意欲を高める指導は、どのようにしていますか。

部の目標や活動方針を理解し、納得することが、大切だと考えています。顧問や部長に押し付け

られたものではなく、自分たちが何をどうしたいのか決め、それに向かって活動していることを理解させるよう心がけています。

また、重要事項を決定するときなどは、極力全員で話し合いをします。事前に話し合う内容について考えさせ、部長の提案する原案に対して意見があれば、必ずその場で言うこととし、対立したとしても話し合いをとおして自分たちで納得する答えを出すようにしています。

音楽的な意欲を高めるためには、プロや全国大会レベルの高校・大学のコンサートを積極的に聴きに行かせています。インターネット上の動画やCD・DVDなども勉強のために聴かせていますが、生の音やコンサートの場の空気を目で、耳で、肌で感じることはとても大切で影響力も大きいと感じています。

2 県立大宮光陵高等学校 書道部の場合

(1) 年間練習計画の作成は、どのようにしていますか。

《実践例》

- ・ 年度当初に出品する（できる）展覧会を提示し、計画的に取り組めるようにしています。
- ・ 各展覧会で取り組む古典や規格の選定は顧問と部員とで話し合い、効果的に確実に能力を高めていく為の系統的な学習過程を踏めるように指導しています。
- ・ 出品までの様々な過程を想定し、早目の計画を立てるように指導しています。この力が高校卒業後に自ら考え計画的に進めていく力となると考えます。

(2) コンクール等の出展間際の練習は、どのようにしていますか。

《実践例》

- ・ 題材の選定から作品制作に取り組む期間、出品するための装丁の時間も含めた計画を立てて活動し、出品間際（試合期）で活動の内容が変わることのないようにしています。

(3) 長期休業中（夏季・冬季・学年末・春季）の練習は、どのようにしていますか。

《実践例》

- ・ 学年ごとに取り組む内容や目標が異なるため、各学年の状況に合わせた計画を立てています。また、生徒一人一人の状況もあるため、全体の練習計画の中で、生徒一人一人がどのように活動していくかを考えさせ、顧問と共通理解をもって取り組んでいます。

(4) 専門的な知識や技能がない場合の指導は、どのようにしたらよいですか。

《実践例》

- ・ 顧問が複数いる為、学年にとらわれず、それぞれの専門性を活かして指導しています。また、専門性に関係なく、全ての顧問で（複数の目で）指導し、生徒が多様な視点で考えを深めることができるようにしています。

(5) 部員の気持ちを把握し、活動意欲を高める指導は、どのようにしていますか。

《実践例》

- ・ 顧問内で生徒の情報を共有し、チームで指導しています。受賞の経歴ではなく、作品制作の過程の良い点を生徒と共有し、生徒が自分の成長の過程を理解するようにしています。

Q5 感染症対策はどのようにしたらよいですか。

部活動中の接触が原因と見られる新型コロナ感染症のクラスターも発生しています。今後も、細心の注意を払いながら、「新しい生活様式」を意識した活動を心掛けてください。

○学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～ Ver.5（文部科学省ホームページ）

※随時更新されているので、確認をお願いします。

https://www.mext.go.jp/content/20201203-mxt_kouhou01-000004520_01.pdf

「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準

地域の感染レベル	身体的距離の確保	感染リスクの高い 教科活動	部活動 (自由意思の活動)	
レベル3	できるだけ2m程度 (最低1m)	行わない	個人や少人数での 感染リスクの低い活動 で短時間での活動に 限定	
レベル2	1mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取ること	収束局面 ↓ 感染リスク の低い活動 から徐々に 実施	↑ 感染リス クの高い 活動を 停止	感染リスクの低い活動 から徐々に実施し、教 師等が活動状況の確 認を徹底
レベル1	1mを目安に 学級内で最大限の 間隔を取ること	適切な感染対策を行った 上で実施	十分な感染対策を行 った上で実施	

P50～部活動の記述（抜粋）

2. 部活動

地域の感染状況に応じて以下の通り取り組みます。

【レベル3地域】

可能な限り感染及びその拡大のリスクを低減させながら、なるべく個人での活動とし、少人数で実施する場合は十分な距離を空けて活動します。

密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声したりする活動は行わないようにします。

【レベル2地域】

可能な限り感染症対策を行った上で、リスクの低い活動から徐々に実施することを検討します。密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする場面が多い活動、向かい合って発声したりする活動の実施は慎重な検討が必要です。

なお、相当の期間において感染者が確認されていない地域にあつては、可能な限り感染症対策を行った上で通常の活動に移行することが考えられます。他方、直近の一週間において感染者が確認されている地域にあつては、より慎重な検討が必要です。

【レベル1地域】

可能な限り感染症対策を行った上で通常の活動を行います。

(全体を通じての留意事項)

- ・ 運動不足の生徒もいると考えられるため、生徒の怪我防止には十分に留意すること。また、生徒に発熱等の風邪の症状が見られる時は、部活動への参加を見合わせ、自宅で休養するよう指導すること。
- ・ 生徒の健康・安全の確保のため、生徒だけに任せるのではなく、教師や部活動指導員等が活動状況を確認すること。
- ・ 活動時間や休養日については、部活動ガイドラインに準拠するとともに、実施内容等に十分留意すること。特に分散登校を実施する学校では、ガイドラインよりも短い時間の活動にとどめるなど、分散登校の趣旨を逸脱しないよう限定的な活動とすること。
- ・ 活動場所については、地域の感染状況等にもよるが、可能な限り屋外で実施することが望ましいこと。ただし気温が高い日などは、熱中症に注意すること。体育館など屋内で実施する必要がある場合は、こまめな換気や、手洗い、消毒液の使用（消毒液の設置、生徒が手を触れる箇所の消毒）を徹底すること。また、長時間の利用を避け、十分な身体的距離を確保できる少人数による利用とすること。特に、屋内において多数の生徒が集まり呼気が激しくなるような運動や大声を出すような活動等は絶対に避けること。
- ・ 用具等については、生徒間で不必要に使い回しをしないこと。
- ・ 部室等の利用については、短時間の利用とし一斉に利用することは避けること。
- ・ 大会やコンクール等の参加に当たっては、学校として主催団体とともに責任をもって、大会における競技、演技、演奏時等のもとより、会場への移動時や会食・宿泊時、会場での更衣室や会議室等の利用時などにおいても、生徒、教師等の感染拡大を防止するための対策を講じること。
- ・ 練習試合や合同練習、合宿等の企画・実施に当たっては、地域の感染状況等を踏まえ、部活動を担当する教師のみで行うのではなく、学校として責任をもって、大会等の参加時と同様の感染拡大を防止するための対策を講じること。
- ・ 運動部活動の実施に当たっては、各競技団体が作成するガイドラインを踏まえること。
運動部活動でのマスクの着用については、体育の授業における取扱いに準じること。
以上のほか、「運動部活動に参加する学生等の集団における新型コロナウイルス感染症対策の徹底について（通知）」を参照すること。

以上のほか、文部科学省作成の「教育活動の実施等に関するQ&A」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/coronavirus/mext_00032.html) で示している内容に留意すること。随時更新されています。

※文化部についても、各連盟等が作成するガイドラインを踏まえること。

(一例です。随時更新されています。)

- ・ 「吹奏楽の活動及び演奏会等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」 (一般社団法人全日本吹奏楽連盟ホームページ)
- ・ 「合唱活動における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」 (一般社団法人日本合唱連盟ホームページ)
- ・ 「クラシック音楽公演における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」 (一般社団法人クラシック音楽事業協会ホームページ)

Ⅲ 部活動指導の工夫・改善について

～「原則として平日2時間程度」の効果的な文化部活動指導を目指して～

生徒が部活動に意欲的に取り組み、心身ともに発達していくことに加え、指導する顧問や外部指導者も充実感を得ることができる運営がなされることが理想的です。

生徒の「もっとやりたい」という意欲や顧問の「もっと教えたい」という意欲はもちろん大事ですが、そればかりでは効果的な心身の成長は望めないばかりか、生徒や顧問ともに意欲の喪失にもつながりかねません。効果的な部活動運営を企画する上でのポイントを挙げていきます。

1 生徒のニーズを知る

自ら希望して入部した生徒たちが、何を目的・目標に活動しているのかをしっかりと把握し、練習計画を立てていく必要があります。

また、毎日が同じ練習の繰り返しでなく、メリハリのある活動をしたり、その日のねらいを明確にするなど、生徒の意欲を引き出す工夫が必要です。

「大事なことは毎日練習」することの大切さは指導者として感じていると思います。しかしながら、生徒自身に振り返らせる時間や十分な休養をとらせることは、パフォーマンスの向上につながっていくことと考えられます。

部活動だけでなく、学校生活全体をリフレッシュさせることを考え、「授業も練習もない日」を設定することで生活にメリハリをつけることができます。

学校の実情・生徒の実態もありますが、土・日曜日のいずれか一日に加え、授業日にも一日以上の休養日を設定しましょう。

「適切な休養を取らせることも練習の一部」と考え、部員一人一人の自由時間を確保し、心身のリフレッシュを図ることで、次の練習の効果を高めることとなります。

2 年間計画や週間計画を立てる

ほとんどの学校では、限られた施設・設備を、様々な部活動が共同で利用しています。

施設の有効活用を図るため、年度始め等に顧問会議や部長会で各部の調整を実施している学校が多いようです。年間を通じて固定した利用計画を立てるのではなく、互いに必要に応じて融通し合い、その週の練習の目的が効率よく達成できるようにしましょう。1週間の練習計画は、短期的な計画ですが、月間計画や年間計画の一部であることに留意しましょう。

3 短時間で効果を上げる練習をするための工夫例

[練習の内容を厳選する]

「今日の練習のポイント」を明確にし、ねらいを達成させる練習内容にすることが大切です。

練習のバリエーションを持つことは大切ですが、練習のポイントを生徒にどのように意識させるかが大切です。

[高いレベルのパフォーマンスを見せる]

中学生や高校生の全国大会や、大学生や社会人の高いレベルのパフォーマンスを見学することで、生徒の感性を磨くことは、技術の向上だけでなく、モチベーションの向上にもつながります。無理のない範囲で見学の機会を設けるのもよいでしょう。

練習計画や指導についてのQ & A

1 練習計画の作成

Q 6 年間練習計画の作成は、どのようにしたらよいですか。

年間練習計画の作成は、部活動における技術指導を系統的かつ合理的に展開させ、月間、週間計画の基礎となる極めて重要な作業の一つです。また、不慮の事故があった場合など、この年間計画が作成してあることによって、関係機関に日常の活動の様子を正確に知らせることができます。

この作成に当たっては、顧問と部員が十分に話し合い、部全体の共通理解を図ることが大前提になります。次の点に留意して作成に当たしましょう。

- 1 埼玉県の一部活動の在り方に関する方針、学校の教育目標、部活動運営方針に応じたものである。
- 2 生徒のニーズを配慮している。
- 3 目標達成の具体的内容、方法を示している。

また、活動を通して生徒の意見等を把握する中で、適宜、目標や計画等を見直していくことが望まれます。

また、入部の際や保護者へ説明をし、理解を得ることが重要です。学校の年間予定のデータを教務からもらい、部活動の年間予定も一緒に入れて保護者に示している事例がありました。定期テストや英検等の検定試験などの計画も含め、学校行事全体を見渡せてわかりやすいという効果もあります。

Q 7 大会（コンクール）期の練習は、どのようにしたらよいですか。

生徒にとって大会は、練習の成果を発揮する絶好の機会です。そこで、大会前や大会中の練習は、チーム（個人）として最高の状態で、しかも部の総力を挙げて臨めるような状態を作り出すことが必要です。そのためには、次のことに留意することが大切です。

- 1 練習時間・練習内容と休養のバランスに配慮し、ベストコンディションの維持に努める。（過度の練習をさけ、疲労を残さないようにする。）
- 2 大会直前には、可能であれば、大会と同様な条件で練習し、集中力を高め、能力を最大限に発揮できるよう調整をする。
- 3 大会で週休日の2日間とも活動を行った場合は、翌日を休養日に充てたり、翌週末を休養日に充てたりするなど、活動と休養のメリハリをつけるよう練習日程を調整する。

特に大会が近づくと、出場メンバーとなっている部員にのみ指導が集中しがちになります。出場メンバー以外の部員も視野に入れ、一人一人がその役割を果たし、部の目標達成に向かって、全力を出しきる体制づくりを心掛けましょう。

Q 8 長期休業中（夏季・冬季・学年末・春季）の練習は、どのようにしたらよいですか。

長期休業中の練習は、年間を通して最も練習効果の期待できる期間です。また、普段ではできない練習を行うことで、パフォーマンスの向上が図れる期間でもあります。一方、長期休業は、生徒にとって様々な体験のできる機会であり、家庭や地域との連携を図りながら、部員一人一人の生活時間の確保にも努めましょう。このため、長期休業前にミーティングを開き、練習日と休養日などの練習計画を検討し、できるだけ早く家庭にも知らせておくことが必要です。

Q9 専門的な知識や技能がない場合の指導は、どのようにしたらよいですか。

文化部活動の顧問にとって、実技指導ができることが理想ですが、それ以外に生活面の指導や社会的態度の育成等も大切な指導内容の一つとなります。顧問はその活動を適正に指導・援助していく立場にあることをまず理解する必要があります。

そこで、次の事項に留意して指導することが大切です。

- 1 努めて毎日の活動に立ち会う。
部員との人間関係や種目への理解を深めることで、さらに生活面や社会的態度等の指導も円滑にできるようになります。
- 2 必要に応じて地域の指導者など、外部指導者を活用する。
条件を整えば、専門的な指導力を持った、地域の指導者を依頼することもよいでしょう。
部員にとっては緊張感のある練習ができ、また顧問にとっても技術を習得する絶好の機会となります。
- 3 リーダーを育て、顧問自らも学ぶ。
部員や技術力の優れた部員を中心にして、各自が主体的に練習に取り組む中で、顧問と一緒に学ぶ姿勢を示すことが大切です。
- 4 講習会・研修会等へ参加し指導力を高める。
各種講習会や他校顧問との交流は、指導力の向上や新しい情報収集の機会となります。

このように、顧問自身が常に学ぶ姿勢を持つことが部員との信頼関係を一層強固なものとし、よりよい部活動の運営につながります。

Q10 外部指導者を依頼するには、どのようなことに注意する必要がありますか。

顧問の専門的な技術指導力が不十分な場合、部員数が多く、指導の限界となる場合等に、外部指導者を依頼することもあります。外部指導者を依頼するに当たっては、次の事項に留意する必要があります。

外部指導者の活用に当たっては、顧問は絶えず外部指導者との話し合いを持って相互の人間関係を円滑にしておくことが大切です。

- 1 外部指導者依頼の必要性の検討
顧問だけでなく部員にとっても外部指導者が必要かどうかを確認します。
- 2 教職員の共通理解
学校長をはじめ、全教職員に外部指導者受け入れの必要性について、理解を求めます。
- 3 外部指導者と確認すべき事項
(1) 学校の部活動指導方針及び指導内容 (2) 報酬
(3) 期間・指導日及び指導時間 (4) 災害補償 など
- 4 指導者の適格条件の確認
(1) 識見と指導力 (2) 健康状態 など

あくまでも、部活動の指導責任者は顧問であり、外部指導者には、学校・顧問の指導方針に基づいて指導に当たることを理解してもらう必要があります。

なお、地域との連携を図る観点から、積極的に地域の指導者を導入する等の配慮も必要です。

学校としても、実技指導のできる顧問の育成や資質の向上に組織的に取り組むことが大切です。

2 生徒との信頼関係を育てる顧問の心構え

[活動場所に向く]

顧問は、可能な限り活動場所に向き部員とともに汗を流し、話し合い、励まし合い、高め合っていくことが大切です。部活動を通して、日々成長していく生徒の充実感あふれる姿に直接触れることができるのは、何物にも変え難い喜びとなります。

また、その部活動に対し、技術指導の経験がなくても、ルールや指導法について関係する情報を積極的に収集し研究することが必要です。分からないことがあればその都度、身近にいる同僚や同じ部活動を指導している他校の教員・団体の関係者等と積極的に交流して指導力を高める努力をし、顧問自ら学ぶ姿勢を持つ事が大切です。

以上のように、顧問が自ら学び、部員とともに活動する「姿勢」は、顧問と部員との信頼関係を強固にし、部活動指導の基礎となります。

基本的な生活習慣を部活動で身に付け、日常生活で生かせるようにすることが大切です。そのためには、顧問と学級担任や全教職員及び地域の方々とも連携し、一人一人の部員を大切にしながら継続して指導することが必要です。



活動する時は、常に整理整頓をするよう徹底し、みんなが気持ちよく使えるよう活動場所の掃除等も積極的に行いましょう。

また、各パートなどで使用した部屋を元通りに戻すこと（窓の開閉、机・椅子の整頓等）も徹底して行いたい場面です。顧問の最終チェックは必要ですが、生徒だけでもしっかりと確認できる体制を整えましょう。責任感をしっかりと育てたいものです。部活動で身に付けた力が、様々な場面で発揮されることが期待されます。



一人一人の部員の声を聴き、個人指導やパート指導を適宜行い、どこに課題があり、どんなことに気を付けて練習をすればよいのかを具体的に伝えることが大切です。

指導を受けて、後日、「できるようになったこと、まだできていないこと」などを、顧問が変化をしっかりと伝えることで、生徒も練習に課題意識をもって取り組めるようになります。

Q11 部内の望ましい人間関係を確立していくためには、どのようなことに配慮したらよいですか。

部活動においては、望ましい人間関係を確立しなければなりません。そこで、顧問は次のようなことに配慮し、望ましい人間関係の育成を図ることが大切です。

1 一人一人を大切にされた部活動の推進

共に学び合い、助け合いながら協力して部活動を運営することが大切です。

練習の場においては、すべての部員がそれぞれの能力に応じた、技術や体力の向上に向けて平等に練習できるような場を工夫するなど、合理的な活動を推進することが必要です。また、個人記録ノートや部活動日誌に記録させ、反省や次の日の活動に活用させることも忘れてはなりません。

2 連帯感を育てる部活動の推進

大会は、部活動の成果を確認する1つの手立てとなります。勝敗や、より上位の大会に進出することも大切ですが、一部の選手に目を奪われ、チーム全体の和を損なうことにもなりかねません。

大会に出場できない部員の陰の努力を十分に認めるとともに、全部員の協力で、大会に出場できるという感謝の気持ちを持たせることが大切です。

また、上級生が苦言を言わなければならない場合がありますが、その場合には役割分担を明確にして、それまでの人間関係を壊さないようにする必要があります。

3 リーダーシップの育成と役割分担

下級生が上級生に意見を言うことはなかなかできないものです。そこで上級生のリーダーシップを育成し、全員の役割分担を明確にして、上級生自ら1・2年生の時に経験した嫌な事柄を、組織として改善しなければなりません。新入部員に対し、上級生とともに活動の準備や片付けをする中で、責任感と学年の区別なく協力することの大切さを理解させ、上級生自ら率先垂範できるよう指導することが大切です。



パート練習では、上級生が下級生の指導をするのが通常だが、時には、下級生が上級生の演奏についても気が付いたことを遠慮なく言える雰囲気を作りたい。また、練習メニューをパートリーダーが示し、それについてしっかりと活動ができたか、何についてできるようになったかを顧問がチェックする。

次の大会や発表会までに、「何をいつまでにやらなくてはならないのか」を見通し、自分たちの練習を自分たちで考えられるように、部長、副部長、その他の幹部役員とともに、顧問は体制を整えておきたい。

Q12 生徒会活動や学級活動等との調和を図るためには、どのような工夫・配慮が必要ですか。

部活動は学校教育活動の一環として位置付けられ、学校の教育目標・指導方針に基づいて、年間指導計画により活動しています。したがって、他の学校教育活動全体との調和を図りながら活動を推進する必要があります。

このため、以下の2点に留意することが大切です。

- 1 教職員の部活動に対する共通理解を図る。(部活動の意義・運営方法・指導方針等)
- 2 年間指導計画作成時に、相互の活動時間の調和を図る。(運動部活動も含めて)

また、部員に対しては、下記の事項について指導する必要があります。

各学校の実態、地域、保護者の考え方で、部活動に対する要求や期待は異なりますが、練習時間や練習内容を工夫する中で、生徒会活動や学級活動との両立を図っていくことが大切なことです。

部活動で培った自主・自律の態度、リーダーシップ等を特別活動で存分に発揮させることは、生徒個人の人的成長を促し、有意義な学校生活を送る上で大変重要なことです。その結果、学校全体の活性化にもつながります。

- | | |
|----------------|----------------|
| (1) 学校生活の意義 | (2) 部活動の意義と重要性 |
| (3) 日常生活における規律 | (4) 部活動参加への心構え |

Q13 部員の気持ちを把握し、活動意欲を高める指導は、どのようにしたらよいですか。

部活動を充実させるためには、部員一人一人の活動意欲を高め「やる気」を喚起させることが必要です。そのために顧問が部員とどのようなかかわりを持ち、接していくかということが課題となります。部員自ら課題を持ち、主体的に活動できることに主眼を置き「一人一人が良さを生かし、友と高め合う」ことが大切です。

IV 部活動における事故防止

生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動は、学校教育活動として位置付けられており、指導に当たる教員は、参加する生徒の安全を確保する義務を負っています

事故防止に関するQ & A

Q14 万が一、事故が発生した場合は、どのような対応が必要ですか。

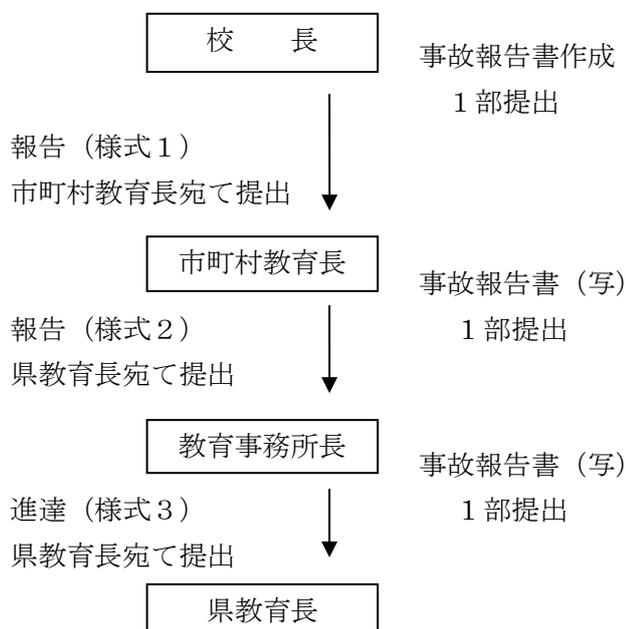
万が一、事故が発生した場合、迅速かつ適切な対応が必要です。そのためには、日頃から校内外の救急体制が有効に機能するよう全教職員の役割分担や手順を明確にしておくことが大切です。保護者や本人への対応は、誠意をもって対処する必要があります。

- 1 負傷の箇所、程度等を的確に把握し、速やかに適切な判断、処置をする。
- 2 負傷者はもとより、周囲の者にも動揺を与えないよう冷静にかつ複数で対応する。
- 3 可能な応急手当を実施する。必要に応じて躊躇なくAEDを使用するとともに、119番に通報し救急車を要請する。
- 4 負傷の程度により、医療機関、他の教職員、管理職、保護者へ連絡する。頭部及び頸部の負傷の

場合は、受傷時に症状がなくても必ず医療機関に受診させる。負傷者の搬送には自家用車は使用しない。

- 5 事故発生状況や緊急対応処置等を時系列に沿って正確に記録しておき、医師や保護者への説明、報告書の作成及び今後の事故防止対策の資料とする。
- 6 活動場所を離れるときは、他の部員への指導や指示を適切に行う。
- 7 保護者に引き渡すまでは、負傷者に付き添う。
- 8 事後の本人及び保護者への対応は、誠意をもって対処する。
- 9 死亡事故及び10日間以上の欠席を要する事故については、市町村立学校は市町村教委へ1部、県立学校は県立学校人事課へ1部、事故報告書の提出が義務付けられている。
- 10 関係者や外部への対応は窓口を一本化する。

◎事故報告書の提出経路及び部数について（市町村立学校）



Q15 部活動中の事故は、顧問に責任があるのですか。

国・公立学校の教職員の過失による事故の場合、国家賠償法第1条が適用され、損害賠償請求は公務員個人に請求するのではなく、学校の設置者である市町村、都道府県あるいは国が賠償責任者となります。

しかし、公務員に故意又は重大な過失があったときは、国又は公共団体は、その公務員に対して求償権を有するとされています。なお、損害賠償義務の生ずる不法行為として、次の5つがその成立要件であるとされています。

- 1 損害の現実の発生
- 2 行為者に故意、過失のあること
- 3 行為そのものが違法であること
- 4 行為者に責任能力があること
- 5 行為と損害の発生との間に相当の因果関係があること

重大事故発生の場合には、裁判で争われることも少なくありません。そこでは、計画に無理がなかったか、指導に安全を確保する義務（危険予知義務）、危険な結果を回避する義務（危険回避義務）

などの注意義務違反がなかったか等について厳しく追及されます。

このように、適正な指導計画の下で、安全に配慮した指導を行わなければなりません。

事故を恐れるあまり、活動を制限することは決して望ましいことではありません。文化部活動でも、体力づくりのために運動を取り入れることも多々あります。事故防止に万全を期すことが大切です。

Q16 熱中症の予防と応急処置について教えてください。

熱中症とは暑熱環境下で行動することによって起こる熱性障害の総称で、通常、熱けいれん、熱疲労、熱射病に分類され、それぞれ病態も異なります。

下記のホームページを参考に、練習時の環境を整え、事故の防止に努めるとともに、万が一事故が起こった時には、速やかに応急処置を行う必要があります。

◆環境省 熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

◆日本スポーツ協会 医・科学ガイドブックHP（「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」）
<http://www.japan-sports.or.jp/publish/tabid/776/Default.aspx#guide01>

熱中症の予防について、下記の事に気を付けましょう。

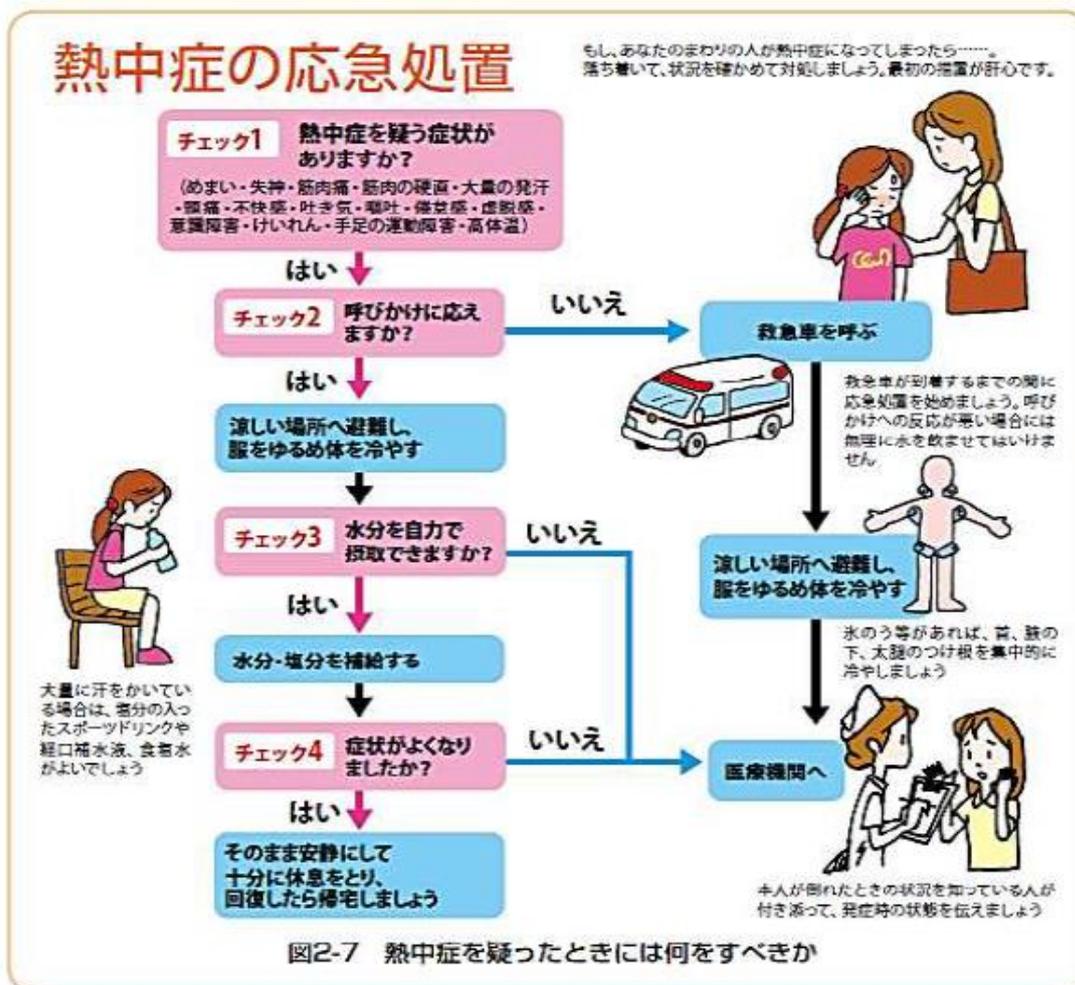
暑い時は水分をこまめに補給します。休憩は30分に1回以上程度とるようにします。
 日常生活において、最適の水分摂取量を決定する最も良い方法は、運動の前と後に体重を測ることで、運動前後で体重が減少した場合、水分喪失による体重減少と考えられますので、同量程度の水を飲んで体内の水分量を調節することが必要です。長時間の運動で汗をたくさんかく場合には、塩分の補給も必要です。0.1～0.2%程度の食塩水（1ℓの水に1～2gの食塩）が適当です（飲料の場合、ナトリウム量は100mlあたり40～80mgが適当）。
 （環境省 「熱中症環境保健マニュアル2018（2018年3月改訂）」から抜粋）

また、練習や試合の環境について、活動場所に温度計等を設置するなど、活動中の気温等の変化を確実に把握し予防に努めることが大切です。

WBGT (°C)	湿球温度 (°C)	乾球温度 (°C)	熱中症予防運動指針	
			運動は原則中止	特別の場合以外は中止。 特に、子供の場合は中止すべき。
-31-	-27-	-35-	厳重警戒 激しい運動は中止	激しい運動・持久走は避ける。頻繁に休憩をとり、水分・塩分を補給。体力の低い人、暑さに慣れていない人は運動中止。
-28-	-24-	-31-	警戒 積極的に休息	積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給。 激しい運動では、30分おきくらいに休息。
-25-	-21-	-28-	注意 積極的に水分補給	死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意。 運動の合間に積極的に水分・塩分を補給。
-21-	-18-	-24-	ほぼ安全 適宜水分補給	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要。 市民マラソンなどではこの条件でも要注意。

（日本体育協会 「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」（平成25年4月）から抜粋）

なお、熱中症が疑われるときの応急処置として、次のフローチャートを参考にしてください。



(環境省 「熱中症環境保健マニュアル 2018 (2018年3月改訂)」から抜粋)

なお、熱中症の防止について、下記の通知も周知してください。

【熱中症の防止について】 (平成30年5月29日付教保体第403号抜粋)

- (1) 学校の管理下における熱中症の死亡事故は、ほとんどが体育・スポーツ活動によるものである。暑い季節の運動は、なるべく涼しい時間帯に行い、こまめに休憩と水分を補給させること。
- (2) 猛暑日になることが予想される場合には、校内放送等を活用し、熱中症予防の注意喚起に努めること。
- (3) 熱中症事故は、梅雨明けなど急に暑くなり、身体が暑さに慣れていない時に多く発生する傾向があるので、暑さに慣れるまでは、短時間で軽めの運動から始め、徐々に身体を慣らすこと。
- (4) 担当教職員は、児童・生徒の健康観察を活動前から終了後まで実施し、熱中症の予防、早期発見、早期の処置に努めること。
- (5) 熱中症は、屋外のみならず屋内において、運動やスポーツをしなくても条件が重なれば熱中症になる。体育館等において多くの児童生徒を集めた集会や室内での活動においても熱中症が起こる可能性があるため、換気を十分行う等室内環境の整備に努めること。
- (6) 万が一事故が発生した場合、教職員一人に対処せず、各学校の「危機管理マニュアル」に沿って複数の教職員で速やかに対応すること。
- (7) 熱中症の発生は気象状況が大きく関係するため、日本気象協会の熱中症予防情報や環境省の熱中症予防サイトなどにより情報収集に努めること。

(参考)

- ◆日本気象協会の熱中症情報 <https://tenki.jp/heatstroke/>
- ◆環境省：熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>
- ◆環境省：熱中症環境保健マニュアル http://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_manual.php
- ◆埼玉県：「熱中症予防の5つのポイント」 <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0704/netsuchusyo/5point.html>

Q17 怪我をした時の応急手当について教えてください。

応急手当とは、怪我人を救助して適切な処置を施し、医師や救急隊員に渡すまでの手当をいいます。ここでは、スポーツ傷害に多い捻挫、打撲、肉離れ等、外出血を伴わないスポーツ傷害の応急手当について述べます。

外傷の一般的な応急手当の原則として、次の4つが（頭文字をとってRICE）あげられます。例えば、捻挫では次のような手当を行います。

- 1 患部を動かさないようにして靴や靴下を脱がす。
- 2 容器に氷と水を入れ、その中に患部を浸すか、大きい氷嚢やアイスパックを患部に当てて冷やす。（10分～20分様子を見ながら繰り返す）
- 3 弾性包帯かテーピングテープで患部を圧迫する。
- 4 患部を心臓よりやや高くして安静にする。

Rest	安静にする
Icing	患部を冷やす
Compression	患部を圧迫する
Elevation	患部を高くする

V 部活動における体罰等の防止

学校教育法第11条

校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に懲戒を加えることができる。ただし、体罰を加えることはできない。

体罰は教職員個人の問題にとどまらず、学校が生徒や保護者からの信頼を大きく失ってしまい、本来行わなければならない教育活動が効果的に行えない状況になるなど、学校教育全体においても重大な問題です。

部活動だけでなく、学校教育活動全体において、体罰を根絶する組織と雰囲気づくりをしていかなければなりません。

〈取材協力・資料提供・写真提供〉

埼玉大学教育学部附属中学校（吹奏楽部）、富士見市立東中学校（吹奏楽部）
川口市立十二月田中学校（吹奏楽部）、深谷市立花園中学校（吹奏楽部）
春日部市立豊春中学校（合唱部）、草加市立谷塚中学校（箏曲部）
県立大宮高等学校（吹奏楽部）、県立大宮光陵高等学校（書道部）

参考・引用

○埼玉県教育委員会平成30年7月「運動部活動の運営等に係る指導の手引（運動部活動のQ&A）」を参考・引用し、「文化部活動の効率的・効果的な指導についての手引（文化部活動のQ&A）」を作成しました。こちらは、効率的・効果的な指導について特化した内容となっております。

「運動部活動の運営等に係る指導の手引（運動部活動のQ&A）」の方に、全般的な内容に関わる内容が網羅されておりますので、併せて御一読いただけますようお願い申し上げます。